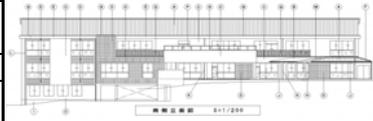


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)カトレア学園新築工事	階数	地上3F
建設地	愛知県東海市	構造	S造
用途地域	第一種中高層、法22条指定区域	平均居住人員	120人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,920時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2016年6月14日
敷地面積	4,211 m ²	作成者	加藤 徹也
建築面積	1,114 m ²	確認日	2016年6月15日
延床面積	2,131 m ²	確認者	加藤 知徳



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE=1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア= 3.0**

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.1

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア= 3.3**

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>14.6 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	14.6 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	14.6 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
 - LR-3.1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
 - Q-2.2 耐用性・信頼性、Q-2.3 対応性・更新性
 - LR-2.2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
 - Q-3.1 生物環境の保全と創出
- ④地域材の活用
 - Q-3.2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
3.2 グレア対策								
3.3 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
4.2 換気								
4.3 運用管理								
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1.2 心理性・快適性								
1.3 維持管理								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
2.2 部品・部材の耐用年数								
2.4 信頼性								
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり								
3.2 荷重のゆとり								
3.3 設備の更新性								

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q3 室外環境(敷地内)								
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	自然な色合いを計画し街並みへ調和、シンボルツリーを設置		4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			3.0	0.30	-	-	3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	-
				3.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性								
LR1 エネルギー								
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.72		4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化								
集合住宅以外の評価(3a,3b)		LED照明を採用		4.0	1.00	-	-	-
集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-	-
4 効率的運用								
集合住宅以外の評価				2.0	0.20	-	-	2.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制				1.0	0.50	-	-	-
集合住宅の評価				-	-	-	-	-
4.1 モニタリング				3.0	-	-	-	-
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル								
1 水資源確保								
1.1 節水		自動水栓や節水型便器を過半に採用		4.0	0.15	-	-	3.4
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減								
2.1 材料使用量の削減				3.3	0.63	-	-	3.3
2.2 既存建築躯体等の継続使用				2.0	0.07	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	-		3.0	0.24	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	押出法ホリスレン板		3.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	内装が乾式工法で分別が容易、再利用可能なユニット部材を採用		5.0	0.24	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避								
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.3	0.22	-	-	3.3
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.32	-	-	-
1 消火剤				3.5	0.68	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)		発泡断熱材はノンフロン製品(A種)を採用		-	-	-	-	-
3 冷媒				4.0	0.50	-	-	-
				3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境								
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2概算値:83%		3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮								
2.1 大気汚染防止				2.8	0.33	-	-	2.8
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.25	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.50	-	-	-
1 雨水排水負荷低減	独自			2.2	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制	独自			3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制	独自			3.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25	-	-	-
				1.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮								
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.1	0.33	-	-	3.1
1 騒音	独自			3.0	0.40	-	-	-
2 振動	独自			3.0	1.00	-	-	-
3 悪臭				-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				-	-	-	-	-
1 風害の抑制				3.0	0.40	-	-	-
2 砂塵の抑制				3.0	0.70	-	-	-
3 日照障害の抑制				1.0	-	-	-	-
3.3 光害の抑制				3.0	0.30	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害チェックリストの一部を満たす、広告物照明がない		3.7	0.20	-	-	-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				4.0	0.70	-	-	-
				3.0	0.30	-	-	-

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

(仮称)カトレア学園新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	2.9	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:14.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)カトリア学園新築工事

計画上の配慮事項	
総合	現況の土地形状を生かし、高さを抑え、既存景観になじむよう配慮している。 建物形状については、切妻屋根とし、周辺環境に溶け込むよう配慮している。
Q1 室内環境	ブラインドやカーテンを採用し、光・視環境に配慮している。 また、F☆☆☆☆建材かつVOC対策品を全面的に使用し空気質環境にも十分配慮している。
Q2 サービス性能	天井高を高くするなど心理性・快適性に配慮している。 階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。 情報通信設備については通信設備の多様化、また、補修必要間隔の長い配管材を採用するなど、建物の耐用性・信頼性に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。 視線を遮らない様な低木の配置、メッシュフェンスの採用など防犯性に配慮している。 空地率を大きくし、保水性の高い舗装材を使用することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。
LR1 エネルギー	断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制している。 LED照明を採用し設備システムの高効率化に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	自動水栓、省水型機器を用いるなど、水資源を保護している。 ノン断熱材(A種)を採用し、汚染物質含有材料の使用を回避している。 可動間仕切りを採用し、部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率を83%とするなど、地球温暖化への配慮をしている。 広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。
その他	